

二場所前に幕内復帰した伊達の富士、大勝ちも大負けもせず地味感を見せる。初日の寶蔵、二日目の照の玉、三日目の超刃と多彩な3力士を連日得意の右から押し倒しに沈め3連勝とした。まだ序盤戦を終えたばかりだが、四日目に降も同系列の佐賀ノ海の活躍にも引けを取らない活躍に期待が高まる。

先場所途中休場で協会陣に不満を残した両横綱、千秋楽を休場した美空富士は初日左を差されながらも四季嶋に攻め込まれず寄り切りで降り、あつきの体制から寄り切りをしない力は凄いな！と周りを唸らせた。しかし、二日目の大神楽、三日目の烏帽子岳戦では立ち合い踏み込み勝るも直ぐに胸を合わされて体を起こされる。左を許し寄り切り、2連敗を喫し、先場所痛めた頸椎が悪化した様で打ち出し後に休場が発表された。

一方、若ノ嶋は初心に返り、これまでの乃からノに改名して挑む今場所。初日の大神楽戦では終始攻め込み完勝で初日を出すと、二日目の四季嶋との一番では立ち合いを制し土俵半周の右の押つけ合いから力強く押し倒し、2連勝を決めると、改名に加え廻しにさがりが新調された横綱に「今場所は何か違うのか？」「どの期待の声が上がったか？」との期待の音が上羽翼戦では立ち目の出が右から押し倒し、左も右から抵抗するのを見せ、精一杯で土俵を割り、三日目に黒星を喫した。



若ノ嶋●(寄り切り)○出羽翼



烏帽子○(寄り切り)●美空富



超 刃●(押し倒し)○伊達富

その他の上位陣は先場所なんとかカド番を脱出した魁電、初日から全く自分の相撲を取らせてもらえずあっさり土俵を割り3連敗で不安なスタートとなった。

先場所新入幕で準優勝の活躍から関脇に大抜擢された千代鈴は、初日の朱雀湖に二日目の出羽翼の勝間田部屋の新鋭を難なく沈めるも、三日目の若剣戦では組み手の悪い相手にも二度の取り直しの後も胸を合わせる事が出来ず幕内力士の洗礼を受けた。悔しい黒星を喫した。しかしこの敗戦も力負けの怪物の四日目に降の土俵も目が離せない。

三役復帰を果たした大神楽は初日の若ノ嶋に敗れるも、二日目の美空富士、三日目の魁電と横綱大関を連日得意の左差しで撃破して好調時に近づいた感がある。部屋頭の小结二人が陥落したのにも関わらず新三役の四季嶋は、美空富士、若ノ嶋、春ノ翔と番付順に対戦すると上位陣の洗礼を受け三連敗の苦い三役デビューとなった。四日目の降の奮闘に期待がかかる。



寶 蔵●(押し倒し)○龍不動



大神楽○(寄り切り)●美空富



千代鈴●(引き落し)○若 剣

序盤の三日目までを取り終えて全勝の春ノ翔、佐賀ノ海、平幕の源氏丸、白閃光、伊達の富士の5名が先頭に立ち中盤戦に進む今場所。上位陣の好調力士はそうそう崩れる事はなさそうだが、平幕陣も全勝力士が三名いるものの、まだ序盤が終わったばかりで誰が抜けるのかは予想がつかない。

長い歴史のなか何度も語られる「何が起きるのか分からないのが紙相撲の本場所」。そんな予想がつけ難いこの先が楽しみな次開催は、お盆前の8月9日にアナウンスされた。全国の紙相撲ファンの皆さん乞うご期待！  
(香具山)

### 十両は春雷らが3連勝

十両は三日目までを行ない、春雷、大江錦、鹿富士、梨ノ城、雪若丸、電幕の6人が3連勝とした。

今場所、好調なのが勝間田部屋。前述のように春雷、大江錦、雪若丸が3連勝だが、十両に5人いて、その5人とも二日目で2連勝というように全員が絶好調。阿古耶川、紅葉盛といったベテランが引退するも、それに代わる若手の成長が著しいものがある。



葵 盛●(寄り切り)○大江錦



雪若丸○(寄り切り)●西勢里



春 雷○(寄り切り)●鬼ヶ嶽

春雷は先場所に続く連続優勝と新入幕を狙う。今場所は東筆頭なので「マジック3」。春雷という四股名が勝間田部屋らしくないとか、大関春ノ翔に対して申し訳ないなどの理由で、すでに改名の話が進行。

「一門で昭和時代に活躍した鉄兜を名乗ったらどうか」との友砂親方からの提案があり、兜がいいのか甲がいいのかなど「てつかぶ」との四股名はほぼ確定だが、どのような漢字になるのか勝間田親方が思案中だ。

今場所の優勝争いは、どうやらこの春雷を含む勝間田勢を中心に繰り広げられそう。また、今場所は4人のフレッシュな新十両が誕生。特に、豊田改め夢香山は香具山部屋二人目の期待の関取。親方の期待が大きいものがあるが、初日、二日目に得意の左を差しながら先に落ちてしまいう相撲で黒星を喫したものの、三日目に初白星をあげ「ここからだ！」と親方の気合が入っていた。



若雲山○(押し倒し)●磯日丸



電 幕○(引き落し)●夢香山

その他では、元関脇の実力者の水晶嶽、鹿富士同様に春日根道場で稽古を積んだ元大関鬼ヶ嶽、西安、西勢ノ里の春日根勢らも今後の活躍次第で優勝争いに絡んできそう。今場所でもまだ始まったばかりで優勝争いがどのよう展開して行くか、四日目に降が楽しみ。

(錦風)